出資法人等経営状況報告書

1　作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和３年８月24日	担当部署	産業観光交流部　産業政策課

※以下は令和３年３月31日現在の内容です。

2　法人等の概要

法人名	株式会社　よしかわ杜氏の郷		
代表者	代表取締役　野澤　朗		
	□ 常勤　■ 非常勤	□ プロパー　■ 市兼務　□ その他	
所在地	新潟県上越市吉川区杜氏の郷１番地		
設立年月日	平成11年３月24日		
資本金	92,075千円	市出資割合	82.6%
設立目的	酒米の生産と地酒醸造による消費者との結び付きにより地域農業の発展、農家所得の向上を図るため。		
主な事業	(1) 酒類の製造・販売 (2) 道の駅よしかわ杜氏の郷の管理運営		

3　役員数

（単位：人）

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	0	3	3	2	1	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	0	4	4	3	1	0

4　職員数

（単位：人）

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	4	4	0
その他	6	6	0
計	10	10	0

5　事業実績（概要）

・売上高は、前期と比較して 25,331 千円減（31.4%減）の 55,335 千円となりました。主な要因は、新型コロナウイルス感染症の拡大（以下、コロナ禍）に伴い、約 2 か月間の店舗休業やＧｏＴｏトラベルキャンペーン及び催事・イベントが中止となったことであります。

・コロナ禍において、同社では、昨年 5 月に全国新酒鑑評会において「よしかわ杜氏　大吟醸」が会社創立以来初入賞したほか、また、8 月には全国燗酒コンテストにおいて「よしかわ杜氏　大辛口」と「天恵楽純米酒」が金賞を受賞しました。また、減少する売上げを挽回するため、この受賞をきっかけに 8 月に隣接する道の駅と連携した盆花市を開催したほか、10 月 31 日、11 月 1 日には三賞受賞感謝祭を開催するなどイベントによる売上向上を図ったほか、巣ごもり需要をターゲットに各種団体や地域住民への広報強化や、市内酒屋へのトップセールスを行い販路拡大に取り組みました。

・これらの取組の結果、同社の主要取引先である生活協同組合パルシステム東京及びパルシステム生活協同組合連合会の売上高は、前期と比較して 6,279 千円増（76.3%増）の 14,514 千円となりました。

・また、販売費及び一般管理費は、コロナ禍に伴う催事・イベントの中止により、旅費や広告宣伝費、人件費等が減少したため、前期と比較して 8,241 千円減（24.9%減）の 24,799 千円となりました。

・この結果、営業損失は 15,961 千円となりましたが、雇用調整助成金や持続化給付金等の各種助成金の給付があったことから、経常損失は 6,701 千円を計上し、最終的な当期純損失は 6,991 千円となりました。

・第 23 期末の累積欠損金は、92,075 千円減資したことにより、前期と比較して 73,831 千円減の 6,991 千円となりました。

○　店舗利用状況

（単位：人）

区　　分	第 21 期（※） （H30.7～H31.3）	第 22 期 （H31.4～R2.3）	第 23 期 （R2.4～R3.3）
店舗利用状況	7,123	9,907	4,412

※　第 21 期は、事業年度変更に伴い、9 か月決算となっています。

6　財務状況（税抜）

（単位：千円）

項　目		第21期 自 平成30年7月1日 至 平成31年3月31日	第22期 自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日	第23期 自 令和2年4月 1日 至 令和3年3月31日
損益計算書	売上高	66,017	80,666	55,335
	売上原価	40,298	56,664	46,497
	売上総利益	25,719	24,002	8,838
	販売費及び一般管理費	29,652	33,040	24,799
	営業利益	△3,933	△9,038	△15,961
	営業外収益	992	4,097	9,379
	営業外費用	41	34	119
	経常利益	△2,982	△4,975	△6,701
	特別利益	0	0	0
	特別損失	0	0	0
	税引前当期純利益	△2,982	△4,975	△6,701
	法人税等	217	290	290
	当期純利益	△3,199	△5,265	△6,991
項　目		平成31年3月31日現在	令和2年3月31日現在	令和3年3月31日現在
貸借対照表	資　産	123,250	117,179	114,687
	負　債	14,656	13,850	18,350
	純資産	108,594	103,328	96,337
	資本金	184,150	184,150	92,075
	利益剰余金	△75,556	△80,822	△6,991
	その他	0	0	11,253

※　金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

※　第21期は、事業年度変更に伴い、9か月決算となっています。

7　市からの財政支出等

(1)　委託額（税込）　（単位：千円）

内訳		平成30年度	令和元年度	令和２年度	備考
①	道の駅よしかわ杜氏の郷管理業務委託料	3,287	3,292	3,684	
計		3,287	3,292	3,684	

(2)　財政援助額（税込）　（単位：千円）

内訳		平成30年度	令和元年度	令和２年度	備考
①	補助金（助成金）	241	30	425	事業者応援給付金、事業者経営支援金、雇用調整助成金申請費補助金
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他（　　）	0	0	0	
計		241	30	425	

8　今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

第 24 期は、売上高 75,860 千円、経常利益 187 千円を目標とし、コロナ禍であるからこその巣ごもり需要をターゲットにした各種団体や地域住民への販売促進や、地域に愛される酒蔵を目指します。

(1)　新たな需要を生んでいる日本酒消費への営業活動
　①　インターネットを通じた営業活動の強化
　②　若者に親しまれる清酒開発などによる商品のブラシュアップ
　③　旅行会社とのツアー企画による来店者数の増加、新たな顧客の獲得

(2)　店舗売上向上の推進
　①　日本酒と肴のセット販売
　②　観光酒蔵として市内酒蔵の商品販売
　③　道の駅と連携したイベントの開催
　④　来店しやすい環境づくり

(3)　組織の活性化等
　①　部署部門問わず横断的な仕事の共有による効率化
　②　施設内外の衛生管理と整理整頓の実施
　③　効率化に向けた設備導入や安定供給に向けた設備更新等の検討
　④　経理、酒造関係ソフト事業の効率化

(2) 中長期経営計画

なし

9　経営状況の分析・評価

(1)　第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋

D	債務超過に陥っている、又は、資本金の 50%を超える累積欠損金がある、若しくはそのおそれがあるか	はい →	第三セクター等評価委員会に見解を求める
	↓いいえ		
C	3 期連続の赤字であるか	はい →	
	↓いいえ		
B	法人の経営の持続可能性に懸念のある事項はあるか	はい →	
	↓いいえ		
A	現状では、当該法人の経営状況に問題（課題）なし		

	フローチャートによる評価基準	備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が 3 期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の 50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	C

→　BからD評価の法人は(2)へ

【特記事項】

6 期連続で単年度赤字を計上したが、減資により累積欠損金を圧縮し、第 23 期末の累積欠損金は 6,991 千円となり、資本金 92,075 千円に対する比率は 7.6%になりました。

(2) 令和３年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価

第三セクター等評価委員会の評価
■ 課題あり □ 課題なし
第三セクター等評価委員会の分析
【上記評価の理由】 ① 品評会等における受賞や特定顧客への売上増は評価できるが、減収・赤字幅拡大であり、黒字化に向け、製造原価等の見直しが必要である。（製造原価と販売管理費の区別するほか、売上原価の変動要因を明確にする必要がある。） ② 売上についても、販路・販売先ごとに推移や変動要因を分析する必要がある。
【その他指摘事項等】 ③ 鑑評会やコンテストの受賞をターゲットに確実に発信し、ＰＲすべき。 ④ 中長期的な目線を持ったリーダーが必要である。目先の改善課題やアクションプランだけでなく、中長期的なビジョンを描くべき。 ⑤ Ｍ＆Ａという選択肢を前向きに検討すべき。Ｍ＆Ａをきっかけに経営不振から脱却した例もある。

(3) 分析・評価結果を受けての対応方針

第三セクターによる対応方針
① 製造原価と販売費及び一般管理費の区別の見直しや、売上原価の変動要因を明確する。 ② 販路・販売先ごとの推移や変動要因を分析したうえで営業活動を行う。 ③ 昨年度は、鑑評会やコンテストの受賞について新聞や当社ホームページでＰＲするとともに、10 月 31 日と 11 月 1 日に感謝祭を開催した。 今後も様々な情報伝達手段を活用しＰＲに努める。 ④ 令和３年４月から取締役１名に代表権を付与し、副社長として現場で経理や店舗運営などの見直しを行っており、中長期的なビジョンや営業戦略等についても検討を進める。 ⑤ まずは、新たな体制のもと上記①から④の取組を含め、経営改善に向けた取組を進める中で、会社の方向性を検討していく。
市担当部署による対応方針
・引き続き、同社の設立目的を踏まえ、地域や他の株主などの関係者と協議をしながら、あらゆる方向性を検討していく。

１０　令和２年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価に対する対応状況

令和２年度 第三セクター等評価委員会の分析・評価【概要】
①　売上の減収に歯止めがかかっておらず、赤字体質のままである。経営戦略やマーケティング戦略を構築し売上及び販路を拡大する必要がある。 ②　過去から比較すると原価率が大きく増えてきている。販売する商品によって原価率は変動するが、原価率の変動に柔軟に対応し、原価率をコントロールする必要がある。 ③　ライバル製品と比較した時の自社製品の差別化できるポイント、あるいは訴求ポイントを明確にし、ポジショニングを築くべきである。 ④　市の温浴・宿泊施設等で、当社製品を取り扱ってもらったらどうか。 ⑤　累積欠損金が増加傾向であり、債務超過に陥る可能性がある。現時点から、民間事業者への株式譲渡による民営化を検討してはどうか。
第三セクターによる対応状況
①　自社ＨＰのインターネット販売において、商品の受賞歴や商品説明を分かりやすく掲載することにより商品の魅力発信に努めたほか、市内酒屋へのトップセールスを実施した。 ②　令和２年度の仕込みは、売れ筋である大辛口などに限定することにより、材料費や労務費等を削減できた。しかし、コロナ禍により売上減少に伴う余剰在庫の整理や資金確保に向けた割引販売を要因として原価率の抑制には至らなかった。 ③　会社の原点である、「良質な酒米」「清冽な酒造りに最適な水」「培われてきた伝統（杜氏）の技」による吉川ならではの酒造り、酒文化の継承を目的に営業活動を実施した。 ④　これまで、一部の温浴・宿泊施設において当社製品を取り扱ってもらっていた。さらに今回、大島やまざくらに営業活動を実施した結果、令和３年４月から大辛口、純米酒及び梅酒の取引を開始した。 ⑤　当面は経営健全化の取組を進めることとしており、上記①から④の取組のほか、令和３年３月 25 日に減資を実施し、累積欠損金の解消及び税負担の軽減を図った。
市担当部署による対応状況
・吉川区地域協議会及び市議会に対し、同社の経営状況と経営健全化の取組について、同社からの報告に基づき説明した。 ・引き続き、当社の設立目的を踏まえ、地域や他の株主などの関係者と協議をしながら、あらゆる方向性を検討していく。

第23期　事業報告書

新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、酒業界のみならず社会全体が低迷した経済状態となり、未だ収束の兆しが見えない状況です。

弊社では、感染症の感染拡大に伴う不要不急の外出自粛により、店舗への来店者数が少なくなり、売上が減少したことから、4月16日（木）から6月19日（金）までの約2か月間、店舗の休業を余儀なくされました。

昨年10月からのGoToトラベルキャンペーン開始後は、徐々に店舗への来店者が戻り始め、売上の回復を期待しておりましたが、度重なる感染症の再拡大によりキャンペーンが中止となったことや、1月からの記録的な豪雪により道路や交通機関などの機能が停滞したことなどにより、店舗への来店者数が昨年比56%減の4,412人となりました。

そのような状況の中、昨年5月には全国新酒鑑評会において「よしかわ杜氏大吟醸」が会社創立初入賞し、また、8月には全国燗酒コンテストにおいて「よしかわ杜氏　大辛口」と「天恵楽純米酒」が金賞を受賞し、改めて弊社の商品がお客様に自信をもって提供できる質の高いものであることが証明されました。

弊社では、感染症の影響により減少する売上げを挽回するため、この受賞をきっかけとし、8月には隣接する道の駅と連携した盆花市を、10月31日、11月1日には三賞受賞感謝祭を開催しイベントによる売上向上を図ったほか、巣ごもり需要をターゲットとした各種団体や地域住民への広報強化や、市内酒屋へのトップセールスによる販路拡大に取り組みました。

これらの取組の結果、弊社の主要取引先である生活協同組合パルシステム東京及びパルシステム生活協同組合連合会の販売ルートでは、売上が前年比176%となり、売上高としては当初計画（5,500万円）を上回る結果となりました。一方で、売上減少に伴う余剰在庫の整理や資金確保に向けた割引販売などを要因として、売上原価に見合う売上の確保ができなかったことなどが影響し、当期純損失は約700万円となり6期連続の赤字となりました。

第　２３　期

決　算　報　告　書

令和　２年　４月　１日から

令和　３年　３月３１日まで

株式会社　よしかわ杜氏の郷

(法人番号:9110001019623)

貸借対照表

商号　株式会社　よしかわ杜氏の郷　　代表者　野澤　朗

令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
Ⅰ 流動資産	(58,674,071)	Ⅰ 流動負債	(4,654,282)
現金及び預金	11,655,366	買掛金	728,266
売掛金	4,463,925	未払金	2,908,751
カード等未収入金	54,077	未払法人税等	290,000
たな卸資産	40,800,663	未払消費税等	698,000
前払費用	282,131	前受金	29,265
未収入金	580,446		
未収還付法人税等	766,273		
立替金	8,809		
仮払金	62,381		
Ⅱ 固定資産	(56,013,256)	Ⅱ 固定負債	(13,695,708)
有形固定資産	(55,027,869)	長期借入金	12,000,000
建物	33,936,354	長期未払金	1,695,708
構築物	2,493,074		
機械及び装置	961,612		
車両運搬具	1		
工具、器具及び備品	122,445		
土地	15,898,270		
有形リース資産	1,616,113		
無形固定資産	(867,167)		
無形リース資産	759,500		
ソフトウェア	67,667	負債の部合計	18,349,990
電話加入権	40,000	（純資産の部）	
		Ⅰ 株主資本	(96,337,337)
		1. 資本金	92,075,000
投資その他の資産	(118,220)	2. 資本剰余金	(11,253,186)
投資有価証券	50,000	(1)その他資本剰余金	(11,253,186)
出資金	60,000	資本金及び資本準備金減少差益	11,253,186
リサイクル預託金	8,220		
		3. 利益剰余金	(△ 6,990,849)
		(1)その他利益剰余金	(-6,990,849)
		繰越利益剰余金	△ 6,990,849
		Ⅱ 評価・換算差額等	(0)
Ⅲ 繰延資産	(0)	Ⅲ 新株予約権	(0)
		純資産の部合計	96,337,337
資産の部合計	114,687,327	負債・純資産の部合計	114,687,327

損益計算書

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

商号　株式会社　よしかわ杜氏の郷

(単位：円)

科目	金額		
I 売上高			
売上高	52,430,267		
指定管理費収入	3,349,210	55,779,477	
売上値引戻り高		△ 444,367	55,335,110
II 売上原価			
期首たな卸高		38,704,998	
商品仕入高	4,202,355		
酒税	4,525,900	8,728,255	
当期製品製造原価		33,503,812	
合計		80,937,065	
期末たな卸高		34,440,283	46,496,782
売上総利益			8,838,328
III 販売費及び一般管理費			
販売費及び一般管理費		24,799,372	24,799,372
営業損失			15,961,044
IV 営業外収益			
受取利息		47	
受取配当金		831	
雑収入		9,377,967	9,378,845
V 営業外費用			
支払利息		117,240	
雑損失		1,410	118,650
経常損失			6,700,849
VI 特別利益			
特別利益		0	0
VII 特別損失			
特別損失		0	0
税引前当期純損失			6,700,849
法人税、住民税及び事業税		290,000	290,000
当期純損失			6,990,849

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科目	金額
販売員旅費	32,740
広告宣伝費	819,870
容器包装費	385,897
発送配達費	2,248,320
販売促進費	567,830
支払手数料	1,025,442
役員報酬	60,000
給料・賞与	8,793,893
雑給	678,022
法定福利費	1,095,772
厚生費	582,367
減価償却費	1,724,431
修繕費	409,231
事務用消耗品費	246,924
通信交通費	433,419
水道光熱費	1,128,790
租税公課	389,858
寄付金	2,000
接待交際費	105,832
保険料	273,980
備品消耗品費	508,819
管理諸費	2,238,405
燃料費	242,197
諸会費	518,642
雑費	286,691
合計	24,799,372

たな卸資産の計算内訳

令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

科目	金額
商品	736,803
製品	7,689,791
半製品	26,013,689
原材料	2,871,103
仕掛品（半成品）	371,617
貯蔵品	3,117,660
合計	40,800,663

商号　株式会社　よしかわ杜氏の郷

製造原価報告書

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科目	金額
Ⅰ材料費	
期首材料たな卸高	3,322,948
材料仕入高	14,659,344
合計	17,982,292
期末材料たな卸高	2,871,103
当期材料費	15,111,189
Ⅱ労務費	
賃金	8,951,023
法定福利費	1,169,888
厚生費	293,196
当期労務費	10,414,107
Ⅲ経費	
電力費	2,212,290
ガス代	48,873
水道料	108,532
減価償却費	1,948,699
修繕費	600,811
租税公課	1,259,642
保険料	164,260
消耗品費	1,227,875
雑費	342,000
当期経費	7,912,982
当期総製造費用	33,438,278
期首仕掛品たな卸高	437,151
合計	33,875,429
期末仕掛品たな卸高	371,617
当期製品製造原価	33,503,812

株主資本等変動計算書

商号 株式会社 よしかわ杜氏の郷

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

Ⅰ 株主資本			
1. 資本金			
	当期首残高		184,150,000
	当期変動額		
	減資	-92,075,000	-92,075,000
	当期末残高		92,075,000
2. 資本剰余金			
(1) その他資本剰余金			
資本金及び資本準備金減少差益			
	当期首残高		0
	当期変動額		
	減資	92,075,000	
	減資による欠損填補	-80,821,814	11,253,186
	当期末残高		11,253,186
その他資本剰余金合計			
	当期首残高		0
	当期変動額		
	減資	92,075,000	
	減資による欠損填補	-80,821,814	11,253,186
	当期末残高		11,253,186
3. 利益剰余金			
(1) その他利益剰余金			
繰越利益剰余金			
	当期首残高		-80,821,814
	当期変動額		
	減資による欠損填補	80,821,814	
	当期純損失	-6,990,849	73,830,965
	当期末残高		-6,990,849
その他利益剰余金合計			
	当期首残高		-80,821,814
	当期変動額		
	減資による欠損填補	80,821,814	
	当期純損失	-6,990,849	73,830,965
	当期末残高		-6,990,849
株主資本合計			
	当期首残高		103,328,186
	当期変動額		
	減資	0	
	当期純損失	-6,990,849	-6,990,849
	当期末残高		96,337,337
Ⅱ 評価・換算差額等			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		0
Ⅲ 新株予約権			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		0
純資産の部合計			
	当期首残高		103,328,186
	当期変動額		
	減資	0	
	当期純損失	-6,990,849	-6,990,849
	当期末残高		96,337,337

商号　株式会社　よしかわ杜氏の郷

個別注記表

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

Ⅰ．重要な会計方針に係る事項に関する注記

1．有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法による原価法を採用しております。

2．たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法を採用しております。

3．固定資産の減価償却方法
(1)有形固定資産
法人税法の規定に基づく定率法又は旧定率法を採用しております。
ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については法人税法の規定に基づく旧定額法、平成19年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。
(2)無形固定資産
法人税法の規定に基づく定額法又は旧定額法を採用しております。
(3)リース資産
法人税法の規定に基づくリース期間定額法を採用しております。

4．消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

Ⅱ．貸借対照表等に関する注記

1．有形固定資産の減価償却累計額　155,303,382円

Ⅲ．株主資本等変動計算書に関する注記

1．発行済株式総数　3,683株

Ⅳ．一株当たり情報に関する注記

1．一株当たり純資産額は、26,157.30円であります。

2．一株当たり当期純損失は、1,898.13円であります。

以　上

監　査　報　告　書

私は、令和２年４月１日から令和３年３月３１日までの第２３期事業年度の当該事業年度に係る事業報告及び計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、及びその附属明細書）その他会計に関する一切の証憑・帳簿及び関係書類を監査いたしました。

監査結果

（１）事業報告書等の監査結果

一　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。

二　取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（２）計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以　上

令和３年５月１５日

株式会社　よしかわ杜氏の郷

監　査　役　山下　博

第24期事業計画書

1　事業方針

今年に入ってもいまだ新型コロナウイルス感染症により、経営状況は厳しい状況にあり、観光来客数が激減し、終息から景気の回復までには未だ先行きが見えない状況にあります。

弊社では、このような状況下をピンチではなくチャンスと捉えて、コロナ禍であるからこその巣ごもり需要をターゲットにした各種団体や地域住民への販売促進や、地域に愛される酒蔵を目指して、以下の取組を推進します。

2　事業計画

(1)　新たな需要を生んでいる日本酒消費への営業活動

① インターネットを通じた営業活動の強化

② 若者に親しまれる清酒の開発

③ 年間1000人を目標に新たな顧客獲得

(2)　店舗売上向上の推進

① 日本酒と肴のセット販売

② 観光酒蔵として市内酒蔵の商品販売

③ 道の駅と連携したイベントの開催

④ 来店しやすい環境づくり

(3)　組織の活性化等

① 部署部門問わず横断的な仕事の共有による効率化

② 施設内外の衛生管理と整理整頓の実施

③ 効率化に向けた設備導入や安定供給に向けた設備更新等の検討

④ 経理、酒造関係ソフト事業の効率化

第24期収支計画書

単位：千円

区　分	第24期計画			第23期実績	
	金　額	構成比	前年比	金　額	構成比
売上高	75,860	100.0%	137.1%	55,335	100.0%
売上原価	56,895	75.0%	122.4%	46,497	84.0%
売上純利益	18,965	25.0%	214.6%	8,838	16.0%
販売費及び一般管理費	24,525	32.3%	98.9%	24,800	44.8%
営業利益	△ 5,560	-7.3%	34.8%	△ 15,961	-28.8%
営業外収益	5,781	7.6%	61.6%	9,379	16.9%
営業外費用	34	0.0%	28.6%	119	0.2%
経常利益	187	0.2%	-2.8%	△ 6,701	-12.1%